

龍野地区防犯パトロール隊（熊本県）

市下 こんにちは。熊本県から来ました、龍野地区防犯パトロール隊です。地域の皆様からは、龍野の「龍」、ドラゴンから「ドラ・パト隊」と呼ばれて親しまれておりますので、これからドラ・パト隊と言って説明させていただきます。申し遅れましたが、私はドラ・パト隊の隊員で、隊の母体でもあります龍野地区社会福祉協議会の書記をしております、市下潤子と申します。また、隣がドラ・パト隊の隊長で地区の社会福祉協議会の会長でもあります、北川國昭です。どうぞよろしくお願いし



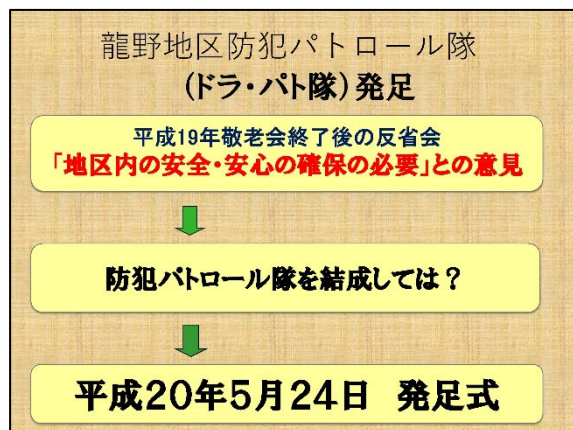
ます。

北川 北川です。よろしくお願いします。

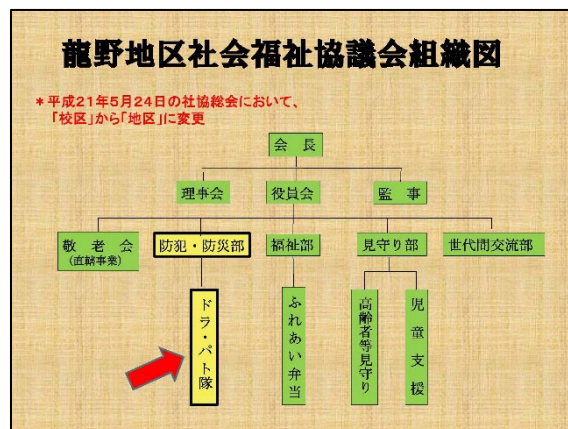


団体概要

市下 それでは、ドラ・パト隊が発足した経緯について説明します。平成 19 年 11 月にあった敬老会の反省会で、地区内の安全安心の確保が必要だという意見が出ました。すると、パトロールなど防犯活動が必要だということで、防犯パトロール隊を結成してはどうかという結論になりました。そして防犯パトロール隊の結成に向けて何度も話し合いを重ね、地区の社会福祉協議会の参加組織として、平成 20 年5月にドラ・パト隊が発足しました。これがドラ・パト隊の発足式を報じた新聞記事です。発足式には約 200 人が集まり、龍野小学校の体育館で盛大に開催されました。



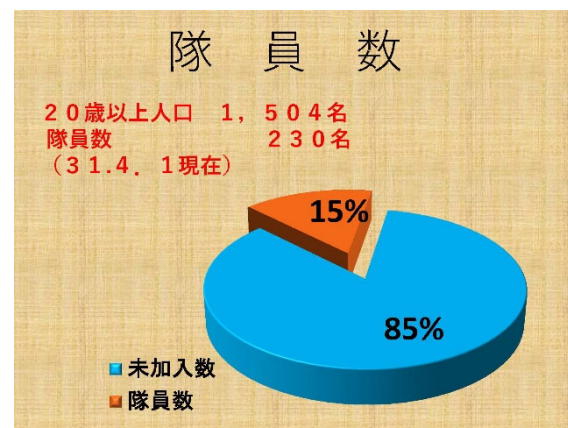
まず、ドラ・パト隊の組織について説明します。ドラ・パト隊はこの組織図のとおり、母体となっている龍野地区社会福祉協議会の一部に所属しています。ドラ・パト隊をはじめ各部の管理運営、広報等は全て地区の社会福祉協議会が一括して行っており、情報を一元化することで活動の無駄や認識の違い等が発生しないようにしております。最初にも申し上げましたとおり、地区の社会福祉協議会の会長がドラ・パト隊の隊長も兼ねています。



ドラ・パト隊では、マスコットキャラクターを作っています。この地区内の龍野小学校のマスコットキャラクター、たっぴーを作成された先生にお願いして、ドラ・パト隊用のたっぴーを作成していただきました。かわいくもあり、精悍さも持ち合わせたキャラクターで、地区の皆様をはじめ、町内の方々からも親しまれています。そのマスコットキャラクターをあしらったのが、ドラ・パト隊隊員証です。この隊員証を自宅の玄関、車のリアガラスなどに貼って、この地域は防犯対策が取られている地域だということをアピールしています。



次に、隊員数について説明します。隊員は平成 29 年度に 300 名を超えておりましたが、今年度初頭に加入継続の調査を行ったところ、230 名の継続に減少しました。これは龍野地区の 20 歳以上の人口の 15%になります。減少した要因として、発足から 11 年となり、当時 70 歳だった方が現在 80 歳代となっておられ、活動に自信が持てなくなり退会された結果、隊員数が減少したものと思われます。しかし、退会後も玄関には隊員証のステッカーが貼られており、犯罪抑止の効果は残っています。



ドラ・パト隊の活動方針は、「できる人が できるときに できる方法で」をモットーにしています。パトロール時間を指定したり当番を決めたりする方法もありますが、できるだけ多くの隊員が無理なく活動できるようにとの思いか

ら、それぞれの隊員が活動できる時間帯に、自分ができる方法を自分で考えて活動しています。このような無理なく気軽に参加できる活動が、ドラ・パト隊を長く存続させる秘訣だと思っています。

活動内容

ドラ・パト隊の活動は、日常のそれぞれの個別活動のほか、毎月1日を一斉行動の日として、1日のうち1回は自分なりのパトロールをする日と位置づけ、実施しております。しかし、隊員それぞれが毎日何らかの活動をしておりますので、ドラ・パト隊については毎日が活動日になります。

具体的には、日常、地区内を通行する際にパトロールをしている意識を持つことで、ついでにパトロールという肩肘張らない活動が継続できる秘訣だと思っています。例えば、朝夕の散歩のついでに、防犯の帽子やたすき、腕章、ベストなどを着用して、散歩のついでにパトロールを行ったり、車を運転する際にはたっぴーのマグネットシートをボディーに貼って車を運転することで、パトロールをしている意識を持つようにしています。

具体的には・・・

「日常の地区内通行 + パトロール」

=ついでにパトロール

・散歩ついでに →

帽子・たすき・腕章・ベスト等を着用

・自動車運転のついでに →

「たっぴー」のマグネットシートを貼った車を運転

ドラ・パト隊の活動方針

できる人が

できる時に

できる方法で

無理なく、気軽に参加

ドラ・パト隊の活動

毎月1日 「一斉行動の日」

毎日が活動日

自分なりの方法で地域の安全を

パトロールを強制するのではなく、自主的に自分ができることを



昨年6月、政府により登下校防犯プランが策定され、その中に日常活動の機会に気軽に実施できる「ながら見守り」等の推進を掲げてあります。ドラ・パト隊の活動は正に「ながら見守り」であり、これまでのやり方でよかったのだと実感しています。私たちが暮らす龍野地区は、田舎のため農業従事者も多く、軽トラにドラ・パト隊のマグネットシートや隊員証を添付して、田や畑で農作業をしている隊員もたくさんいます。この方法も自身で考え実行

しておられる活動です。

この写真は、朝の児童の登校の様子です。隊員が子供に付き添い登校しています。先ほども出ましたが、5月には川崎市で児童ら 20 人が登校中に刺されるという痛ましい事件がありました。子供たちや隊員にとって人ごとではありません。

この写真は車の通行量の多い国道の信号交差点で、子供の見守りをを行っている隊員の様子です。子供たちに対する声掛けも忘れません。この写真は、信号機もない交差点での見守り活動を行う隊員の様子です。小学生だけでなく、地区内にある中学校に通う生徒にも声掛けを行いながら、見守り活動を行っています。次の写真は、同じ場所で小学生の子供たちの見守り活動を行っている様子です。これらは全て隊員の自主的な活動です。

これは、入学間もない小学1年生との下校付き添いの様子です。1年生との下校付き添いは入学式の翌日から2週間ほどの短期間ですが、1年生と顔見知りになるよい機会です。

ドラ・パト隊では、地元の龍野小学校、甲佐中学校と良好な関係を築いており、子供たちの休日登校日等の情報共有を図って、町内の防災行政無線で情報を出すなどして、隊員の活動に役立てています。また、形骸化しつつあった「子ども 110 番の家」活動を龍野小学校と連携しながら、ひと目で分かる目立つ看板に設置し直したり、子供たちが 110 番の家を訪問しておうちの方と顔なじみになるなど、安心して登下校や日常生活を送れるよう準備をしています。



ドラ・パト隊では子供の見守り活動だけでなく、高齢者に対しての見守り活動も行っています。前に龍野地区社会福祉協議会の組織図について御説明しましたが、その中に福祉部のふれあい弁当という組織がありました。これは希望する高齢者に対して低価格でお弁当を提供するもので、訪問した際には高齢者の相談相手になったり、ときには振り込め詐欺などの犯罪の被害に遭わないようアドバイスするなど、心がけています。

高齢者宅訪問のほかにも、パトロール中、高齢者に対しても積極的に声を掛けるよう心がけています。過去に

は早朝、顔見知りの認知症を患った高齢者に声掛けをして、自宅まで送り届けたことや、警察署から行方不明の手配が出されていた高齢者の方を発見したこともありました。このようにドラ・パト隊では、子供に対する見守りとともに高齢者に対する見守りにも力を入れています。



次に、ドラ・パト隊で運用している青パトの活動について説明します。現在ドラ・パト隊では7台の青パトを運用しています。後ほど詳しく説明しますが、平成 28 年の熊本地震を受けて、活動範囲も地区内だけでなく管轄警察署管内にも広げていただき、機動力を生かして地震による仮設団地の警戒を行いました。この青パトの活動も、ドラ・パト隊では欠かせない活動の一つになっています。



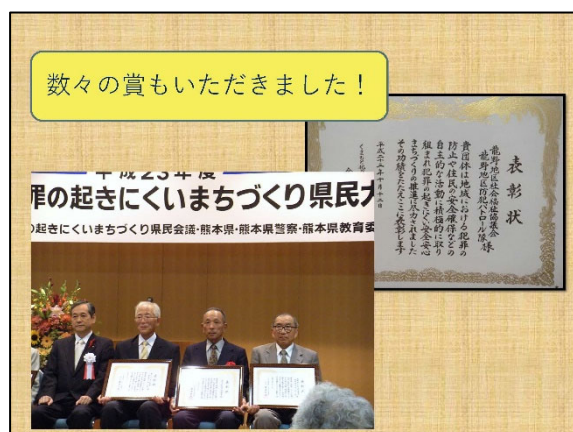
平成 28 年4月に、同じ郡内にある益城町を震源とした大地震が2度にわたって起きました。写真は震源地の益城町の家屋倒壊ですが、震源地に近い甲佐町でも家屋が倒壊するなど、大きな被害に遭いました。地震発生直後からデマが流れたり、無人の被災家屋を狙った空き巣被害が出たり、治安の悪化が懸念されたことから、被災地のパトロールを始めました。その後、町内に6か所の仮設団地が建設され、多くの方々が避難生活を余儀なくされることとなりました。



仮設団地での暮らしを余儀なくされた方々は、無人となった自宅のことや新たな仮設団地での生活のことなど、

多くの不安を抱えておられました。そこで私たちは、そのような方々に少しでも安心感を持ってもらえたらという思いから、仮設団地へのパトロールを実施することになりました。各仮設団地にドラ・パト隊がパトロールで巡回しますという内容の文書を掲示板に掲示し、仮設団地内のパトロールを行ったり、仮設団地で暮らす方々に声掛けを行いました。その結果、仮設団地の住人の方々からは感謝の言葉をいただき、隊員一同、やってよかったと思いました。

手前味噌にはなりますが、私たちが地道に活動が続けた結果、各方面から数々の賞をいただきました。県知事からの表彰など数多くの表彰をいただき、大変励みになりました。どんな賞も大変ありがたいのですが、やはり私たちが実際に見守っている子供たちから感謝の言葉を言ってもらうのが一番の励みになります。この写真は、私たちが見守り活動を行っている甲佐中学校の生徒から、色紙と花束をもらったときの写真と新聞記事です。このように子供たちから直接感謝されると、私たちも本当にやっていてよかったと思うとともに、まだまだ頑張ろうという力になっています。



課題／課題の解決に向けた取組方策

私たちドラ・パト隊にも課題があります。それは活動資金の確保と、もう一つは後継者育成の問題です。その解決策としても甲佐町老人クラブ連合会から義援金を御寄付いただくなどして、ドラ・パト隊のマグネットシートや帽子等を購入し、全隊員に配布しました。また、後継者育成の問題ですが、私たち隊員が無理なく頑張っている姿を見ていただくことで、若い方々が自然と私たちも何かできることがあるかと思って、小さなことから始めていただけたらと思っています。

後継者育成の課題ですが、この写真は今年の七夕で小学1年生の男の子が書いた短冊の写真です。短冊には「おおきくなったらどらばとおじいさんになりたい」と、涙が出るほどうれしい願いごとが書かれていました。

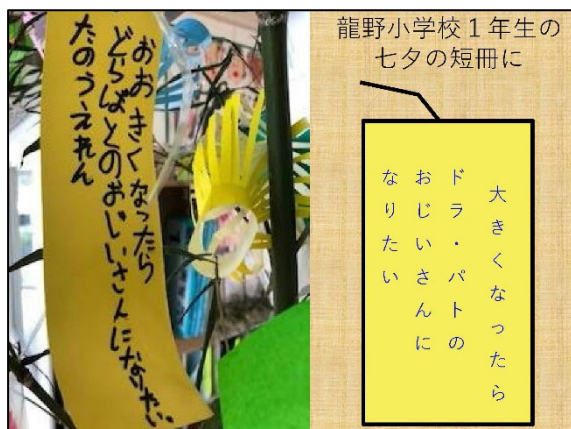
課題も・・・

※ 活動資金の確保

甲佐町老人クラブより熊本地震の義援金をご寄付いただき、マグネットシートや帽子等を購入し配布しました

※ 後継者の育成

現在の隊員が頑張っている姿を見せて、若い方々が「私たちにも何かできることが」と思ってくれたら



まとめ

ドラ・パト隊活発化の要因

1. 発足時の適切な組織づくり
2. 龍野地区に合った運営方法
3. 地域住民の皆様の理解と協力

ドラ・パト隊はいろいろな活動を行える組織となりました。活動を活発化することができた要因は、発足時に管轄の警察署や駐在所と連携するなどして組織づくりに生かされたことと、地区の社会福祉協議会が母体となって、しっかりした組織づくりができたことです。二つ目に、運営の方法も龍野地区に合ったやり方を一貫して模索してきたからだと思います。

三つ目に、最も大きな要因として、地域の皆様方の御理解と御協力があったからだと思います。やはり地元に関差した活動を続けてきたおかげで、地元の方々からの理解も得られたことが、活動を続けられてきた最大の要因だと思います。

このように地域住民の理解と協力により、ドラ・パト隊の活動を続けているわけですが、私たちの代で終わることなく、次の世代にも引き継ぎ、永久的に続けていけたらと思っています。

これでドラ・パト隊の活動報告を終わります。御清聴ありがとうございました。

御清聴ありがとうございました



龍野地区防犯パトロール隊